# 2025 年度　大阪星光学院　学校評価

## 1　めざす学校像

1. 学校教育基本方針

キリスト教の立場から人間と社会をともに考えていくことにより、高い倫理観と確固たる人生観を持った人間の育成をめざす。

2. 学校教育目標

学院生活を通じて徳性を養い、知性を磨き、社会性を身につけ、真に気品ある人物を養成することにある。

## 2　中期的目標

1. 教室を家庭に（家庭的雰囲気の促進）

サレジオ会の支部（「casa」）として教育機関であると同時に親しみある雰囲気のあふれた家庭であることを目指す。合宿などをはじめさまざまな学校の活動を通して、家庭的な雰囲気や、教員と生徒、そして生徒同士の間の信頼関係を培う。心の教育を土台として知的な教育につなげていく。

（1）出会いを育む

出会いを大切にして、大阪星光学院を家庭的雰囲気にあふれた場にしてゆく。教職員と生徒の縁、生徒同士の縁、教職員同士の縁などの人間関係を通して、一人一人が人間として成長することを目指す。

（2）道理に基づく指導を行う

青少年を一人の人間として尊重し、一方的で強制的な指導を避ける。問題のある生徒には、何が問題かを指摘し、今後の処置や指導について理解し、納得してもらうことが重要である。生徒個人に対する注意を含む指導はできるだけ個人的に行う。生徒に対する怒りをコントロールし、道理に基づいた指導を行うことにより、生徒が教員に対する信頼を高める。

（3）チームワークをもち互いに高め合う

教員はいつも生徒の生活全体を見る教育者であり、これは全人教育の基本原則である。一人の生徒は、時間によって、また担当者によって分割されるものではなく、あくまでも一つの人格である。そこには教職員の指導理念の一致と、お互いの間の協力、チームワークが必要である。その上で、相互研修等を行うことにより、資質の向上を図る。

2. 高校入学試験の改革、中学校特別選抜入学試験の実施

高校の生徒募集形態の改革を継続して行う。

中学校入学試験において、城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。

（1）募集形態とカリキュラムの検討

高校からの入学生の募集の規模、選抜試験の内容、選抜方法等について引き続き検討する。

中学校、高等学校におけるクラス数および各クラス定員や担当者数や教科担当者の配置を検討する。

（2）特別選抜入学試験の実施

城星学園小学校の生徒に対し、特別選抜入学試験を実施する。

3. 新教育課程の実施・検証

新教育課程について、内容の理解・分析をさらにすすめ、検証し、今後のカリキュラムなどに反映させる。

（1）新教育課程の内容の分析・理解

（2）新教育課程にもとづく大学試験についての情報収集

（3）本校のカリキュラムの検証・改善

4. 学校内ネットワークの整備および教育機器の改善と ICT 教育の充実

学院内のネットワークを整備することにより教職員の仕事の効率アップを図る。

学院内の教育機器の改善、整備を行うとともに ICT 教育の充実を図る。

5. 海外研修プログラムの充実

（1）夏期休暇に高校 2 年生希望者対象に、ボストン研修を実施する。

ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学の研究施設を訪問し、見学および研修を実施する。

（2）夏期休暇中にハーバード大学の学生を本校に招き、SLICEプログラムを実施する。

（3）春期休暇中にオーストラリア海外研修を実施する。

（4）上記以外の国際交流プログラムの検討

6. 教務システムの改善

導入した教務システムを十全に活用して、さらなる効率化を目指す。

3　本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>教室を家庭に | (1)アッシステンツァの実現<br><br>(2)教室等における生徒へのきめ細かい指導<br><br>(3)特別活動に積極的に関わり、生徒の自主性・実践的に活動する態度を育てる<br><br>(4)教育活動等における教職員間の連携、協力体制の強化。相互研修により資質を高める。 | ア　教室、クラブ活動、南部学舎、黒姫山荘等においてアッシステンツァを行う。<br>イ　教室において生徒一人一人の状態を把握したクラス運営、授業を行う。<br>ウ　生徒、保護者と個人面談をできるだけ複数回行い、相互理解と問題の早期発見に努め、解決する。<br>エ　「いじめ」のアンケートを実施し、クラス内の「いじめ」を早期に発見し解決する。<br>オ　クラブ活動に積極的に参加し、生徒と一緒にいる時間を増やす。<br>カ　体育大会やスクールフェア(文化祭)等で生徒のバックアップを行う。<br>キ　管理職の校内巡回を行い、生徒に声をかける。<br>ク　生徒の質問に答えることのできる体制を作る。(場所、時間)<br>ケ　放課後の自習室を開放する。<br>コ　クラス運営、学校行事等における教職員の相互の連携を強め、協力体制を強化する。相互研修により、資質を高める。 | ア　自己診断表における達成度 80%以上。(2024年度76%)<br>イ　自己診断表における達成度 100%。(2024年度 78%)<br>ウ　生徒、保護者との個人面談を年 2 回以上実施する。(2024年度 2 回以上)<br>エ　「いじめアンケート」を年1回以上実施する。(2024年度2回)<br>オ　自己診断表における達成度 80%以上。(2024年度 80%)<br>カ　自己診断表における達成度 70%以上。(2024年度 78%)<br>キ　校内巡回を週 2 回以上行う。(2024年度毎日)<br>ク　自己診断表における達成度 80%以上。(2024年度78%)<br>ケ　自習室の教室利用率 60%以上をめざす。(2024年度50%)<br>コ　自己診断表における達成度 80%以上。(2024年度70%) | ア　達成度は 78%。教室、合宿行事問わず、本校の教育理念を実現していくための継続的な努力をしていく。(○)<br>イ　達成度78%。生徒も多様化してきており、困難が生じているのは確かだが、最重要課題である。(△)<br>ウ　概ね実施できた。(○)<br>エ　web による「いじめアンケート」を2回実施。アンケートをもとに検討、対応することができた。(○)<br>オ　教員も積極的に活動し、達成度は昨年同様80%に達した。(◎)<br>カ　各行事は従来の形式に戻すことができた。さらに現在の社会情勢に合わせた形での実施を追求していきたい。教員たちは積極的に関わっている。達成度74%(○)<br>キ　校内巡回はほぼ毎日実施。(◎)<br>ク　職員室に質問に訪れる生徒も多く、教員もそれによく応えている。達成度は74%。引き続き努力する(○)<br>ケ　教室利用率は依然として50%程度。利用者を増加させるためには自習室の設置場所、時間などに工夫が必要。外部業者も含め検討。(△)<br>コ　達成度は昨年と同じ70%。教員間でコミュニケーションを密に取り、さらなる協力体制の構築と有意義な研修の実施が求められる。(△) |
| 2<br>中学・高校入試改革の推進 | (1) 高校入試を専願・併願に分けた選抜方法で実施<br><br>(2)中学校、高等学校のクラス編成、カリキュラムの検討<br><br>(3)中学校入学試験における城星学園小学校特別選抜入試の実施 | ア　募集は、専願と併願あわせて約15名、入学者選抜試験で面接は専願のみの実施。<br>イ　クラス編成、カリキュラムを検討する。<br>ウ　高校入試のあり方の検討を続ける。<br>エ　城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。 | ア　専願と併願で約15名募集した。達成度80%(2024年度80%)<br>イ　クラス編成、カリキュラムを検討する。<br>ウ　高校入試の選抜方法を検討する。<br>エ　中学校入学試験で特別選抜試験を実施する。達成度 100%(2024年度 100%) | ア　出願者は48名で、専願15名、併願32名が受験した。合格者は40名で、入学者は16名。達成度 80%(◎)<br>イ　クラス編成は、高校3年は生徒数が多く5クラス体制、他学年は4クラスである。(○)<br>ウ　出願状況を精査しながらより有効な選抜方法等を検討していく。(○)<br>エ　城星学園小学校の生徒に対する特別選抜入学試験を実施した。5名の生徒が受験、全員合格し入学。達成度 100%(○) |
| 3<br>新教育課程の実施・検証 | (1)教育課程の内容の情報収集および理解<br><br>(2)教育課程にもとづく試験情報の収集<br><br>(3)本校のカリキュラムの検証・改善 | ア　新教育課程の情報を収集して理解する。<br>イ　試験情報を収集し、カリキュラムにも反映させる。<br>ウ　カリキュラム研究を継続し、検証を行い、改善してゆく。 | ア　自己診断表における達成度 80%以上(2024年度70%)<br>イ　新カリキュラムを作成して変更する。達成度 100%。(2024年度 100%)<br>ウ　新カリキュラムの問題点を洗い出し、改善してゆく。達成度80%(2024年度 74%) | ア　全学年新カリキュラムの実施。課程の配当は問題なく行えたが、各学年の実施状況を鑑みて調整していくことが求められる。今後も研究を重ね、効果的で効率のよい課程を実現していきたい。達成度77%(○)<br>イ　引き続き高校のカリキュラムを対応させていく。達成度 100%(○)<br>ウ　高校各学年に配当時間を対応させた。広く意見も聴取しながら、必要な部分を改めてゆく。達成度は80%(◎) |

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| 4<br>学内環境の整備 | (1)ICT 教育の充実を図る | ア ICT 教育委員会において本校における ICT 教育を検討する。整備した校内ネットワーク、各教室のプロジェクターなど機器を活用し、教育活動に反映させる。 | ア ICT 教育委員会を中心に研究し、また問題点の改善に努める。<br>達成度 100%<br>（2024年度 100%） | ア 全学年生徒が端末を使用する。授業や探求活動において積極的に活用し、デジタル採点も導入することができた。一方で、生徒に対して使用上の規則を徹底させる必要もある。<br>達成度は 100%。(◎) |
| 5<br>海外研修 | (1)ボストン研修を実施する<br><br>(2)SLICE プログラムを実施する<br><br>(3)オーストラリア海外研修を実施する。<br><br>(4)国際交流プログラムの検討 | ア 夏期休暇中、高校 2 年生の希望者を対象にハーバード大学とマサチューセッツ工科大学の研究室を訪問し、研修を実施する。<br>イ ハーバード大学の学生を本校に招き、SLICE プログラムを実施する<br>ウ オーストラリア、アデレードにおける海外研修を実施する。<br>エ 国際交流プログラムの実施の主体として国際理解の部署を拡充する。 | ア ボストン研修の実施達成度 100%<br>（2024年度 100%）<br>イ ハーバード大の学生を招き、高校 1･2 年生対象に SLICE プログラムを実施。達成度 100%<br>（2024年度 100%）<br>ウ アデレードでホームステイを実施。達成度 100%<br>（2024年度 100%）<br>エ 新たな国際交流プログラムの実施、達成度 100%<br>（2024年度 100%） | ア 今年度もボストン研修を充実した内容で実施することができた。高校2年生参加。(◎)<br>イ 夏期休暇中に、南部合宿を利用して高2生が SLICE プログラムを受講した(希望者)。(◎)<br>ウ 春期休暇中にオーストラリア海外研修を実施。中3･高1が参加。(◎)<br>エ 国際理解の会議を開催し、プログラムの見直しが始まった。今後国際交流行事を充実させていく。(○) |
| 6<br>教務システムの改善 | (1)教務システムの再構築<br><br>(2)入試処理システム改善 | ア 成績処理システムや指導要録、調査書作成等の教務システムを導入し、稼働させる。<br>イ 入試処理システムの改善 | ア 教務システムの安定した運用を実現する。達成度 100%<br>（2024年度 100%）<br>イ 入試システムの安定した運用を実現する。達成度 100%<br>（2024年度 100%） | ア 新しく導入した教務システムに慣れ、問題なく成績処理･指導要録･調査書等作成が行われている。達成度 100%(◎)<br>イ 新入試システムは順調に稼働。ただし、解決すべきさまざまな課題は残る。達成度100%(○) |

4 学校教育自己診断の結果と分析･学校協議会からの意見

| 学校教育自己診断の結果と分析 | 学校協議会からの意見 |
|---|---|
| 【教育課程･学習】<br>･サレジオ会の教育基本理念に基づき、学校の授業やクラブ活動、合宿施設等におけるさまざまな活動において、アッシステンツァを実践しており、今年度も概ね教育目標を達成できたと考えている。感染症等により教育活動が阻害される場面はほとんどなくなったのを機に、これまで通りの活動をなぞっていくことに満足することなく、より時代に即したかたちを模索し工夫しながら教育活動に取り組んでいく必要がある。自己診断表による評価は、過年度と比べて各項目においては大きな変化はないが、教育環境がより安全で充実したものとなるように、意識を持って日々の活動に従事していきたい。<br>･教員の協力体制については、自己診断表74%で良好であるが、分掌の偏りなど課題も明らかなので、問題点の把握と改善に努める。<br>･高校生徒募集は、制度が周知され多くの受験生を迎えることが出来た。高校の受け入れ人数の精査を含め、一層の検討が必要である。<br>･大学入試は、滞りなく対応することができ、多くの生徒が志望する大学へと進学できた。<br>･教員研修は、自己診断表による評価は 64%となり、昨年度よりやや低下した。教員相互の授業見学などにより、教科内の研修には意義を見出せている一方で、教科以外の研修(人権･安全･保健)については内容と参加者の意識の両面において改善の余地がある。<br><br>【教育環境の改善】<br>･各教室のプロジェクターと生徒各自の端末を利用した教育活動を積極的に実施するも、生徒の端末の扱い方に問題が発生することがあり、ICT教育委員会が主体となって課題点の改善に取り組んでいる。<br><br>【海外研修】<br>･海外研修プログラムについては従来の行事をすべて実施することができた。いずれのプログラムにも参加者が多かった。今後、他のプログラム導入も含めて検討を進めていく。 | 【第 1 回(5月31日)】<br>･保護者会総会が開催されなかったため見送り。<br><br>【第 2 回(12月20日)】<br>･「Classi」を活用して、保護者と教員の間のコミュニケーションの濃密化を図る。相互連絡機能を実装して有効に使用できるようにする。学期中、行事中問わず、各学年による「Classi」を利用しての連絡を頻繁に行うようにする。<br>･中学 1 年生において、生徒南部授業合宿期間中に保護者の南部学舎の見学ツアーが実施された。反応は概ね良好であった。<br>･生徒食堂について、サービス全般の改善が必要。メニューや分量等、成長期の生徒にあった内容を検討していく。パンの自販機設置は好評だが、営業時間等に工夫が必要。<br>･スクールフェアの開催日を2日間にして、混雑の緩和を図る。<br>･放課後自習室の検討については前向きに捉えている。ただし、希望する生徒が必ず席を確保できるような仕組みなど内容については慎重に進める。<br>･学校の設備面は概ね問題ないが、空調(特に夏場)については快適さに欠けるときがある。夏期の暑さを考えて、体操服にハーフパンツを設定してはどうか。<br><br>【第 3 回(3月26日)】<br>･光熱費等諸経費支出を分析して、よりよい教育環境の整備に努める必要がある。<br>･入試制度の整備が進むとともに高等学校無償化の影響もあり、高校入試への関心も高まっているので、それに対応できるようにする。<br>･学校法人城星学園小学校との連携校特別選抜入試制度は、いくつかの課題点の解決を図りながら引き続き継続していく。<br>･築後年数が経過している南部学舎(和歌山県みなべ町)、星光山荘(長野県信濃町)の整備等を計画的に進めていく。南部学舎宿泊棟の新築計画は一旦延期となったが、引き続き検討を進めていく。 |